

鈴木 寿子 / SUZUKI, Toshiko

大学院人間文化創成科学研究科

<http://researchmap.jp/toshiko/>

人間文化
創成

日本語教師

■ 研究者情報

連絡先

Email: suzuki.toshiko@ocha.ac.jp

専門分野

共生日本語教育、教師教育、持続可能性教育

■ 研究成果情報

共生社会構築のための 持続可能性教育としての日本語教師養成プログラム開発

キーワード

教師の成長、教育実習、内省、協働

研究内容

■ 概要（背景・目的・内容）

日本にいる外国人は220万人、人口の1.7%を占めています。また、日本語学習者は17万人で、10年前の2倍になりました。外国人が私たちの生活の中で身近になるにつれて、日本語教師の役割は「日本語を教える」ことを超え、外国人の立場を共感的に理解し「共生社会」を形作るという新しい役割が注目されるようになりました。

このような背景に基づいて、

- ・日本人と外国人の共生のために必要な学びの場とはどのような場か、
- ・日本語教師の専門性とは何か、
- ・どのような日本語教師を、どのようなプログラムによって育成するべきかを研究しています。

2011年から2013年にかけて、研究課題「共生社会の構築に資する持続可能性教育としての日本語教師養成」を立ち上げ、国際社会が取り組む地球規模の課題（グローバル イシュー）と、ひとりの人間としての自己の「いかに生きていくか」という課題を同時に深める学びを展開するための「持続可能性教育としての日本語教師養成プログラム」を開発しています。

■ 研究事例

- ・教育実習前後で、実習生はどのような意識変容をするのか
- ・教育実習後3年を経た実習生は、実習をどのように捉え返すのか
- ・日本語教師にならない人にとっても有益な日本語教師養成はどうあるべきか

特許・著作物等の知財情報、製品化情報、あるいは社会貢献実績

- ・ワークショップ「今、ここで日本語教師であること-私と社会と学習者のつながりを考える-」、主催：お茶の水女子大学 日本語文化学会、2011年9月
- ・清水寿子(2007)「多言語多文化共生日本語教育実習における実習生の学びのプロセス-修正版グラウンデッド・セオリー-アプローチによる内省レポートのテキスト分析-」野々口ちとせ、岩田夏穂、張瑜珊、半原芳子(編)『共生日本語教育学-多言語多文化共生社会のために』雄松堂出版 27-39.

産学官・社会連携の可能性

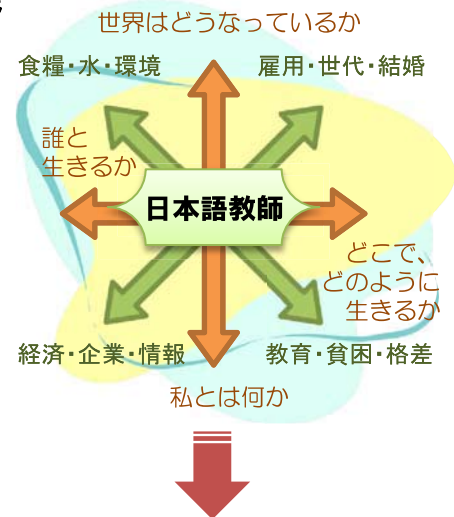
■ 共同研究

日本語教育機関等と、地域日本語教育における教師養成についての共同研究を進めていきたいと考えています。

■ 知見の教授・共有（公開講座、ワークショップ等の実施／出版／その他）

- ・持続可能性教育としての日本語教師教育について、ワークショップ・公開講座の講師をお引き受けできます。

持続可能性教育としての日本語教師養成プログラムは誰と・どのように生きるかなどライフステージ上の問題と食糧・雇用・経済・教育など領域横断型の諸問題を可視化し縦横無尽につなげ、日本語教師の想像力を拡大するプログラムです。



国内及び海外(中国)での実践を経てプログラムの完成を目指します。

持続可能性教育としての
日本語教師養成プログラム
【国内日本語教師版】
【海外日本語教師版】